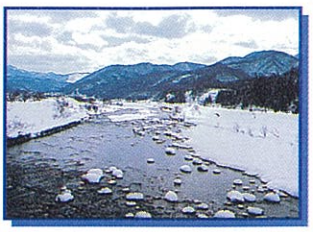
南会津のうりんニュース

第33号　平成13年2月13日発行
福島県南会津農林事務所



今月のトピック

健全な食生活推進研修会とグリーン・ツーリズム推進大会を開催！

去る１月１８日、田島町の田島建設会館において「平成１２年度健全な食生活推進研修会」及び「南会津地方グリーン・ツーリズム推進大会」を開催し、消費者リーダーである消費者研究会、民宿経営者、農林業者、関係機関担当者など約８０名が出席しました。

健全な食生活推進大会

午前に行われた食生活推進研修会は、最新の「食」や農林水産物に関する情報を提供し、本県の農林水産業の理解を深めていただくために開催したものです。研修会では福島大学行政社会学部の岩崎由美子助教授より『「食」と農村交流～郷土食をグリーン・ツーリズムに生かすには～』と題し、いろいろな成功事例を用いて農村女性の起業化とグリーン・ツーリズムとの関係を分かりやすく説明いただきました。また、水田農業振興課の佐藤和恵主査からは「おいしいごはんで食生活」と題した、米消費拡大のＰＲがありました。お二人の講演から食の大切さと地域活性化のヒントが参加者一同、得られたことと思います。

引き続き午後に行ったグリーン・ツーリズム推進大会では、「グリーン・ツーリズムにおける農村女性と高齢者の役割」と題して、喜多方農業体験塾の事務局であるＪＡ会津いいで熊倉支所の岩本充さんより講演をいただきました。喜多方での事例をもとに「グリーン・ツーリズムには農村女性と高齢者の関わりが重要。都会では核家族化が進み、おじいちゃん、おばあちゃんと接するだけで貴重な体験。高齢者の役割がはっきりしてくる」と述べました。

グリーン・ツーリズム推進大会

また、昨年秋、オーストリアのグリーン・ツーリズム事情を視察されたペンション木林森（モクモクモック）のオーナー高橋幸滋さんより「オーストリアのグリーン・ツーリズム見聞録」と題した報告をいただき、オーストリアと日本の違いなどについての説明がありました。

両講師の講演をうけたことにより、南会津地方のグリーン・ツーリズム推進に大いに役立つものと期待されます。

（地域農林企画室）

南会津地方農業・農村振興計画検討会を開催しました

現在策定を進めている「新たな農業・農村振興計画（仮称）」、「福島県第５次土地改良長期計画（仮称）」の南会津地方計画に対して、町村長、農林業関係者、商業関係者、消費者、学識経験者等の意見を把握するため、「第４回南会津地方農業・農村振興計画検討会」を１月１２日梅寿館別館で開催しました。

活発な意見が交換されました

今回で最終回となる検討会では、事務局から南会津地方計画の原案を示しましたが、出席した委員からは、「新規就農者の増加はなかなか難しい。建設業など他産業の労働力も活用すべき」等の意見が出され、南会津地方計画にこれらの意見が反映される予定です。

なお、南会津地方計画を含めた県全体の計画は、２月２０日開催予定の福島県農業振興審議会を経て正式決定となる見込みです。

（地域農林企画室）

この人を知りたい

「県営ほ場整備事業只見地区」成功の大功労者

只見町坂田　　飯塚　恒夫さん

今回は、昨年の１１月に発行された県営ほ場整備事業只見地区竣功記念誌「蘇る大地」の編集長として、また、只見町土地改良区事務局長として県営ほ場整備の推進に活躍された飯塚恒夫さんを紹介します。

飯塚さんと県営ほ場整備の関わりは、昭和５２年の只見町役場産業課長のときにはじまりました。集落まわりをしていた時に、「現状のままでは農業は厳しくなるだけ。」という農家の声を聞いて、ほ場を整備すればなんとかなるのではと思い、農家負担の少ない県営ほ場整備事業に目を付けたのがキッカケ。それから昭和５８年の着工までが大変な苦労をしたとのこと。

昭和５７年の農林土木課長時代には、伊南川流域のほ場整備ということもあって河川改修と重なり、計画の調整や同意書集めなどは毎日仕事を終えた５時以降に行い、土日もなかったといいます。また、飯塚さんは「土地、金が関わるぎりぎりのところでの人づきあいは、その人の本当の姿が見えた。」とのことで、その後の人生の勉強になったそうです。

▲ 飯塚さんが編集にあたった県営ほ場整備事業只見地区竣工記念誌「蘇る大地」

県営ほ場整備事業を始めた時には、伊南川流域全区域を完成させるのは難しいと思われていましたが、只見川流域４集落も含め当初の計画以上の成果を納めたのも、飯塚さんの熱意とご苦労があったからだと思われます。「ほ場整備をして失敗したという声は聞かれない。整備前は、田んぼがだんだん荒れてきていたので、やってなかったら只見の農業はどうなっていたか・・・。ほ場整備で定住条件ができたと思う」と語ってくれました。

飯塚さん夫妻

役場を退職後は、町の教育長として平成元年から平成８年まで勤め、今は、茶道、俳句、養蜂にはじまり町史の執筆まで手がける多忙な飯塚さん。特に１１年間続けている茶道は「心」が大切とのことで、同意書集めに奔走していた時の真摯な心が茶道に通じている様に感じました。

取材の終わりには、奥様の孝子さんお手製の「水飴」を御馳走になり、雪深い只見を後にしました。

（農村整備部）

JAPAN EXPO IN FUKUSHIMA
うつくしま未来博

美しい森・川・海を次世代へ。農林水産館

農林水産館は、目で見て、耳で聞き、手で触り、頭で考えることのできるパビリオンです。小さなお子さまでも、からだ全体で楽しく体験・体感しながら、農林水産業のすばらしさを発見していただけます。

川の道～森・川。海と流れる水の循環

水源から海までの「水の循環」の姿を８つのシーンに切り取った美しい風景が、水の波紋の中に閉じこめられています。

収穫の広場～福島の農林水産業を発見・学習

「森のゾーン」「大地と川のゾーン」「海のゾーン」で農林水産業のさまざまな情報をわかりやすくお伝えし、未来を感じ取っていただきます。

農林水産体感パーク～農林水産業を体感・体験

「福島空中散歩」など、楽しく遊べるさまざまなシミュレーションマシンがいっぱい。

「大雪の中で頑張っています！」　～アルストロメリアの出荷作業～

新年早々から降り続いた雪は、積雪８０ｃｍを越え、１月としては近年にない大雪となりました。

そんな雪の中、下郷町柏木原の花き専業農家で、県の指導農業士でもある小山匡司さんの大型ハウスでは、アルストロメリアの出荷作業が行われています。

ハウスの中は、暖房設備と２重カーテンによって、程良い暖かさに保たれていますが、外ではトラクターにセットされた除雪機が、連日フル稼働で除雪作業に追われています。

ハウスまわりの除雪作業

小山さん曰く。「花き栽培に取り組んで３５年、アルストロメリアの専業経営を始めて１０年、慣れているはずの積雪対策も今年は格別です・・・」。

雪国のハンデに立ちむかい、ハウスを活用して花きの周年栽培に取り組む小山さん。

頑張ってください。春はもうすぐそこまで来ています。

（農業普及部）

小山さん夫妻

ふるさとを顧みて

今回は、全国の子どもたちに農村のすばらしさを発見してもらうために全国土地改良事業団連合会が主催した『「ふるさと田んぼと水」子ども絵画展２０００』で、母親のふるさと「南郷村」を描いた秋山将輝くん（東京都江戸川区立上小岩第二小学校５年）の作品が、４２７２点のうちみごと２３点の入賞作品（浅草ビューホテル賞）に輝いたので、将輝君とお母さんの祐子さんからふるさとに寄せる思いを感想にまとめていただきました。なお、管内からも舘岩小の４名も応募しました。

「僕の大好きな母のふる里　南郷村」

東京都江戸川区　秋山将輝（まさき）くん・秋山祐子（ゆうこ）さん（南郷村東出身）

この絵は僕が、母のふる里南郷村での体験を描いたものです。水神様とお地蔵様は、今は亡き祖母が、僕の両親に子供がなかなかできないので、心配していつもここを通るたびにお願いしていたことを聞き、ここは僕にとってほっとする場所です。下に流れている川は、伊南川につながっていて、とてもきれいで小さな魚がいっぱい泳いでいます。田んぼのあぜ道をおばちゃんが一輪車で重そうに稲の苗を運んでいました。僕はそこで、草花や虫を観察するのがとても楽しみです。また僕は、堆肥作りをしているので、これを使ってオケに六株ほど田んぼ作りを体験したせいか、田んぼの風景や、農作業をしている人にとても興味をもち、農村が大好きになりました。生ごみを利用した堆肥は、土をよみがえらせ、健康に良い米作りができることも知りました。しぎ沼は針生にあるのですが、小さい時から父と何度も魚つりに行き思い出の場所です。僕は大きくなったら、南郷村で無農薬の有機米を作ってみんなが安心して食べられるような米作りをして、収穫の喜びを味わえるような仕事につく事が僕の夢です。（将輝くん）

将輝くんの作品「水神様と田植え」

子供によってふる里のすばらしさを再発見させられました。自分が小さい時に育った環境を少しでも子供に伝わればと山村の話を聞かせたり、体験させた事がこのような思いにつながったのは、親としてとてもうれしい気持ちです。これからも、子供の夢を育みながら、秘境と言われる奥会津の自然のすばらしさを２１世紀へと伝えていけたらと思います。（祐子さん）

今月のコラム

たくましい「ちびっ子登山者たち」

１１月下旬に、宮崎県の韓国岳（からくにだけ）に登ったときのことです。昼食後、１時頃“えびの高原”から登りはじめて３合目付近にさしかかった頃、甲高い幼児たちの声が聞えてきました。小さな体に一人ひとりがきちんと運動靴をはき、リュックを背負っています。幼児たちは各人がそれぞれ食べ物や水を背負ってきているようです。

大きな石や小さな石、そして段差のある山道を元気に降りてきました。

思いがけない光景にめずらしさも加わって、立ち止り、眺めながら声を掛けました。「みんなは何歳ですか」男の子は「みっちゅ」次の女の子は「よんさい」と答が帰ってきました。「えっ３歳、４歳」びっくりしているうちに保母さんと思われる２０代の女性は「３歳と４歳の年少組です」と話してくれました。「みんな、がんばってね」と励ましのことばを掛け見送ります。

どうやら幼稚園の遠足のようです。それにしても、よく見られる父兄の同伴は無いようです。「年少組は５合目まで行って来ました」と保母さんの話。３人の保母さんが２０人ほどの幼児を引率しているようです。幼児たちを眺めているうちに、一人の男の子が「ザー」という音とともに、石車に乗り滑って尻餅をつき転んでしまいました。瞬間、男の子の顔は苦痛にゆがみ、べそをかきはじめました。その時、保母さんは「石の上に転んで尻餅ついたら、痛いのあたりまえでしょう」と言ったのです。これは、登る前に充分に注意されていたことなのでしょう。男の子は、泣くのをやめ、すっくと立上がりまた元気に歩きだしました。

自分の足で自分の力で注意しながら歩く、歩かせる。ケガ等させないようにと、引率者にとってはかなりのプレッシャーが掛るところですが、極自然にまかせているこの光景にはすごく教えられるものがありました。

家族登山のときによくある、おんぶにだっこなどはまったく見られません。甘やかしは無いのです。

小春日和の穏やかな日射しの中、幼児達は自然を満喫しています。幼児たちを引連れて登山の行事を極自然にこなしている保母さん達の自信に満ちた顔がいまも印象的です。

心身共にたくましい子供達を見送りながら、保母さんの仕事も地味であるが大変な仕事であることを認識し、すっかりさわやか気分になり頂上を目指していました。

農業普及部長　　玉木　保雄

～研修会・講習会等お知らせ～

内　容	月　日	場　所
①農業機械研修　：「ガス溶接基本」	２月２２～２３日	農業短期大学校
②農産加工研修　：「ジュース加工応用」	２月２２日	農業短期大学校
③農産加工研修　：「豆腐加工」	３月６日	農業短期大学校
④農業機械研修　：「トラクタけん引」	３月１２～１６日	農業短期大学校

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所　TEL0241-62-5866
南会津地域農業改良普及センター　TEL0241-62-5262

問い合わせ

あて先　〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所　地域農林企画室
TEL 0241-62-5866　FAX 0241-62-5256
E－mail　m-nourin@akina.ne.jp
ホームページ　http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真
鹿島橋から見た雪の伊南川
（南郷村）

古新配合率50%再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOYINK
この広報紙は古紙配合率５０％再生紙とSOY（大豆油）インキを使用しています。